

安全データシート

ページ: 1/14

BASF 安全データシート

日付 / 改訂: 30. 09. 2025

製品: Luprosil®

バージョン: 21.0

(30041113/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 18.10.2025

1. 化学品及び会社情報

品名:

Luprosil®

用途: 飼料添加物

供給者の会社情報、住所及び電話番号:

BASFジャパン株式会社

東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号

OVOL 日本橋ビル 3階

電話番号: +81-3-5290-3000

Eメールアドレス: Japan-SDS-Info@basf.com

緊急連絡先:

電話番号: 03-6634-2245

+49 180 2273-112 (International emergency number)

2. 危険有害性の要約

【化学品のGHS分類】:

引火性液体: 区分3

急性毒性: 区分5 (経口)

急性毒性: 区分5 (経皮)

皮膚腐食性: 区分1B

眼に対する重篤な損傷: 区分1

特定標的臓器毒性 (単回暴露): 区分3 (呼吸器系を刺激する)

【GHSラベル要素】:

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:
危険

危険有害性情報:

H226	引火性液体及び蒸気。
H303	飲み込むと有害のおそれ。
H335	呼吸器への刺激のおそれ。
H314	重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。
H313	皮膚に接触すると有害のおそれ。

注意書き（安全対策）:

P280	保護手袋と保護衣と保護眼鏡または保護面を着用すること。
P271	屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P210	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P243	静電気放電に対する措置を講ずること。
P260	粉じん/ガス/ミスト/蒸気を吸入しないこと。
P241	防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
P264	取扱い後は汚染された体の部分をよく洗うこと。
P242	火花を発生させない工具を使用すること。
P240	容器を接地しアースをとること。

注意書き（応急措置）:

P305 + P351 + P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P310	直ちに医師に連絡すること。
P312	気分が悪いときは医師に連絡すること。
P303 + P361 + P353	皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣服をすべて取り除くか脱ぐこと。皮膚を水またはシャワーで洗い流すこと。
P304 + P340	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P301 + P330 + P331	飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
P302 + P312	皮膚に付着した場合：気分が悪い時は日本中毒センターもしくは医師に連絡すること。
P301 + P312	飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
P363	汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
P370 + P378	火災の場合：消火に水、粉末消火剤、泡もしくは二酸化炭素を使用すること。

注意書き（保管）:

P403 + P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P233	容器を密閉しておくこと。
P405	施錠して保管すること。

注意書き（廃棄）:

P501 適切に分別した内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に廃棄を委託すること。

GHS分類に関係しない又は GHS で扱われない他の危険有害性:
この項に、有効な情報の記載がある場合、それは、GHS分類の結果ではなく、物質もしくは混合物の総合的な危険性に寄与する可能性があるGHS分類以外の危険性に関するものである。

3. 組成及び成分情報

化学特性

化学物質・混合物の区別: 単一製品

カルボン酸

GHS分類に寄与する成分

プロピオン酸

含有量 (W/W): $\geq 99.5\%$ - $\leq 100\%$	引火性液体: 区分 3
CAS RN: 79-09-4	急性毒性: 区分 5 (経口)
化審法: (2)-602	急性毒性: 区分 5 (経皮)
労働安全衛生法: (2)-602	皮膚腐食性/刺激性: 区分 1B
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分 1
	特定標的臓器毒性 (単回暴露): 区分 3 (呼吸器系を刺激する)

酢酸

含有量 (W/W): $\geq 0\%$ - $\leq 0.2\%$	引火性液体: 区分 3
CAS RN: 64-19-7	皮膚腐食性/刺激性: 区分 1A
労働安全衛生法: (2)-688	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 区分 1

化学式: C3 H6 O2

4. 応急措置

[応急措置をする者の保護に必要な注意事項]:
救急隊員は自身の安全に注意を払うこと。患者が意識を失いそうになったら、横向き (回復体位) で安静に寝かせ、搬送する。汚れた衣服は直ちに置き替える。

[吸入した場合]:
直ちにコルチコステロイドエアゾール製剤を吸入すること。安静にし、新鮮な空気のある場所へ移動させ、医師の診察を受けること。

[皮膚に付着した場合]:
直ちに水で十分に洗い流した後無菌包帯を巻き、医師の診察を受ける。

[眼に入った場合]:

直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。

[飲み込んだ場合]:

直ちに口をすすぎ、200-300mlの水を飲み、医者の診察を受ける。

[医師に対する特別な注意事項]:

症状: 情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。

処置: 症状に応じて処置(洗浄・機能回復)を講じる。特に解毒剤なし。

5. 火災時の措置

[適切な消火剤]:

噴霧水, 粉末, 泡, 二酸化炭素

[火災時の特有の危険有害性]:

炭素酸化物, 窒素酸化物

火災の場合、前述の物質／物質グループが放出される可能性がある。

[消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置]:

自給式呼吸器および耐薬品性保護衣を着用すること。

[追加情報]:

汚染された消火用水を別途回収すること。下水または廃水処理施設に流さないこと。

6. 漏出時の措置

[人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置]:

身体保護: 耐薬品性保護衣及び自給式呼吸器具を着用すること。耐酸性長靴を着用すること。

[環境に対する注意事項]:

排水溝に流さないこと。

[封じ込め及び浄化の方法及び機材]:

大量の場合: ポンプで容器に回収する。

残渣の場合: 吸着剤に吸収させ回収し処分する(例: 砂、おが屑、珪藻土)。法令に従って吸着剤を廃棄すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

[取扱い]

作業場の換気を十分に行う。使用時には飲食または喫煙をしないこと。休憩前とシフトの終わりに手や顔を洗うこと。汚れた後、すぐに衣服を着替える。

安全取扱注意事項:
静電気防止対策をとる。発火源を近づけない。消火器常備のこと。

[保管]

アルカリおよびアルカリ化剤から離しておくこと。
保管条件に関する追加情報: 容器は密閉して乾燥した換気の良い冷暗所に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

酢酸, 64-19-7;

STEL (short term exposure limit : 短時間 15 ppm (ACGIHTLV)
TWA (time weighted average : 時間加重平均) 10 ppm (ACGIHTLV)
TWA (time weighted average : 時間加重平均) 25 mg/m³ ; 10 ppm (日本産業衛生学会 許容濃度)
STEL (short term exposure limit : 短時間 15 ppm (濃度基準値 (安衛則 第577条の2第2項))
施行日: 2025年10月1日

プロピオン酸, 79-09-4;

TWA (time weighted average : 時間加重平均) 10 ppm (ACGIHTLV)
TWA (time weighted average : 時間加重平均) 10 ppm (濃度基準値 (安衛則 第577条の2第2項))
施行日: 2025年10月1日

【保護具】

[呼吸用保護具]:
換気が不十分な場合は、呼吸保護具を着用すること。有機化合物（沸点65℃以上）のガス／蒸気用ガスフィルターEN 14387 A型

[手の保護具]:
耐薬品性保護手袋 (EN ISO 374-1)
長時間の直接接触でも問題ない素材（保護指針6に準ずることが望ましい。EN ISO 374-1によると、透過時間は480分以上であること。） :
ブチルゴム（ブチル）、肉厚0.7 mm
短期間の接触に適した素材（保護指針2に準ずることが望ましい。EN ISO 374-1で、透過時間は30分以上であること。）
ニトリルゴム（NBR）、肉厚0.4 mm
クロロプレンゴム（CR）、肉厚0.5 mm

[眼の保護具]:
ゴーグル型保護メガネ（ケージゴーグル）（EN 166準拠）および保護面

BASF 安全データシート
日付 / 改訂: 30. 09. 2025
製品: Luprosil®

バージョン: 21.0

(30041113/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 18.10.2025

[皮膚及び身体の保護具]:
抗酸性耐薬品性保護衣 (EN 14605準拠)

[一般的な安全及び衛生対策]:
皮膚、眼、衣服への接触を避ける。蒸気を吸入しない。皮膚および眼との接触を避けること。すべての汚染された衣類は直ちに脱がせること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態:	液体
色:	無色
臭い:	刺激臭
臭いのしきい値:	測定されていない。
pH:	2.5 (100 g/l, 20 ° C) 文献データ
pKA:	4.87 (20 ° C)
融点:	-20 ° C
沸点:	140.7 - 141.6 ° C
引火点:	53 ° C (ISO 13736, 密閉式)
蒸発率:	値は、ヘンリー則定数もしくは、蒸気圧から類推することができる。
可燃性 (固体/ガス):	引火性液体及び蒸気。 (引火点から導きだした)
爆発下限界:	2.1 % (V) (46.9 ° C) この物質/混合物の下限の発火点は決まっている。この発火点は、空気との混合飽和蒸気の濃度が爆発限界の下限と等しくなる時の可燃性液体の温度を示している。
爆発上限界:	12.0 % (V)
自然発火温度:	485 ° C (DIN 51794)
熱分解:	測定されていない。
自己発火性:	構造特性から、この製品は、自己発火試験の種類: 室温において自然性に分類されない。発生する自己発火性。
自己発熱性:	該当しない、製品は液体である。
SADT:	GHSによれば、自己分解し易い物質/混合物ではない。

火災を引き起こす性質: 構造的長に基づき、製品は酸化剤に分類されない。

蒸気圧: 5 mbar
(20 ° C)
約 23 hPa
(50 ° C)

密度: 0.993 g/cm³
(20 ° C)
文献データ
0.957 g/cm³
(55 ° C)
文献データ
0.9990 g/cm³
(15 ° C)
0.9610 g/cm³
(50 ° C)

相対ガス密度 (空気): > 1 (推定値)
(20 ° C)
空気より重い。

水に対する溶解性: 混合可
(20 ° C)

n - オクタノール/水分配係数 (log Pow): 0.25
(25 ° C)

0.33 (算出Hansch/Leo)
吸着/水-土壌: KOC: 1.201; log KOC: 0.08 (算出)
データは、この物質の非荷電の形に当てはまる。環境下では、この物質は、ほぼ完全に荷電の形である。

表面張力: 化学構造に基づき、表面活性はないと考えられる。

粘度: 1.102 mPa. s
(20 ° C)
文献データ

モル質量: 74.08 g/mol

10. 安定性及び反応性

[避けるべき条件]:

避けるべき条件はないと思われる。

熱分解:

測定されていない。

[混触危険物質]:

塩基類, コーティングされていない金属, 卑金属

金属の腐食:

金属に対する腐食性はないと予測される。

水や湿気の下で、金属腐食の可能性を排除できない。

[危険有害な分解生成物]:

強アルカリと反応する。発熱反応。

有害な分解物はなし。

化学安定性:

本品は、化学的に安定している。

11. 有害性情報

ばく露経路

急性経口毒性

実験または計算によるデータ:

LD50 (半数致死量) ラット (経口): 3, 455 mg/kg (OECDテストガイドライン401に類似)

急性吸入毒性

LC50 (半数致死濃度) ラット (吸入による): > 19.7 mg/l 1 h (OECDテストガイドライン403)

蒸気で試験した。

LC0 (0%致死濃度) ラット (吸入による): 24.4 mg/l 8 h (IRT (inhalation risk test: 吸入暴露試験))

文献データ 動物実験において、前述の暴露時間内には、死亡はみられなかった。蒸気で試験した。

急性皮膚毒性

LD50 (半数致死量) ラット (経皮): 3, 235 mg/kg (OECDテストガイドライン402に類似)

急性毒性の評価

単回の摂取であれば、低毒性である。吸入による毒性は実質上なし。短期間の皮膚接触後、低毒性を示す。吸入暴露試験 (IRT): 動物実験において、8時間以内では死亡なし。蒸気/空気高飽和混合気体の吸入による急性毒性はなし。

症状

情報、すなわち症状および影響に関する追加情報は、2章で利用可能なGHSラベルのフレーズ及び11章で利用可能な毒性評価に含まれる。

刺激性

刺激性作用の評価:

腐食性。皮膚及び眼を損傷する。

実験または計算によるデータ:

皮膚腐食性／刺激性 ウサギ: 腐食性 (BASF試験)

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 ウサギ: 回復不可能な損傷 (Draize試験)

文献データ

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性の評価:

動物実験では、皮膚感作性は認められなかった。

実験または計算によるデータ:

モルモットに対するmaximization法 モルモット: 感作性なし (OECDテストガイドライン406に類似)

本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

生殖細胞変異原性

変異原性の評価:

細菌類に対して変異原性を示さなかった。哺乳類の培養細胞に対して変異原性を示さなかった。哺乳類を用いた試験では、本品は変異原性を示さなかった。この製品は、完全には試験が行われていない。これらの記述は、類似の構造もしくは、類似の組成の製品から得られたものである。

発がん性

発がん性の評価:

長期間の餌による高濃度での投与動物実験において、発癌性は認められなかった。

生殖毒性

生殖毒性の評価:

データなし。試験は、科学的に正当化されていない。

発生毒性

催奇形性の評価:

動物実験では、発生毒性／催奇形性は認められなかった。本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

気道を刺激する可能性がある。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

反復投与毒性の評価:

動物への反復投与試験の後、物質特有の臓器毒性は、観察されなかった。繰り返しの投与後、顕著な影響は腐食の誘発である。

誤えん有害性

予測される吸入危険性はない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生生物に対する毒性の評価:

水生生物に対して急性の有害性はほとんどないと考えられる。廃水処理施設に低濃度で適切に流入すれば、活性汚泥の分解活性を阻害しない。

魚類に対する毒性:

LC50 (半数致死濃度) (96 h) > 10,000 mg/l, ウグイ (学名 *Leuciscus idus*) (DIN 38412 第15部, 止水式)

本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

水生無脊椎動物:

EC50 (48 h) > 500 mg/l, オオミジンコ (学名: *Daphnia magna*) (EU指令 84/449/EEC, C. 2, 止水式)

本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

水生植物:

EC50 (72 h) > 500 mg/l (バイオマス), 緑藻 (学名: *Scenedesmus subspicatus*) (OECDテストガイドライン 201, 止水式)

本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

微生物/活性汚泥への影響:

EC20 (20%影響濃度) (30 min) 500 - 1,040 mg/l, 家庭廃水由来の活性汚泥 (DIN EN ISO 8192, 水生の)

本品は未試験である。記述は、本品の類似の構造または組成に基づくものである。

魚類に対する慢性毒性:

試験は、科学的に正当化されていない。

水生無脊椎動物に対する慢性毒性:

試験は、科学的に正当化されていない。

陸生生物に対する毒性の評価:

土壌生物:

データなし。

陸生植物:

EC50 (3 日) 125.8 mg/l, *Lactuca sativa*

文献データ

その他の陸生非哺乳動物:

データなし。

移動性

環境区分間の輸送評価:

水面から大気中に揮発しない。

土壌の固相には吸着しないと考えられる。

残留性・分解性

除去情報:

約 74 % ThOD (theoretical oxygen demand: 理論的酸素要求量) に対する BOD (30 日) (その他) (好気性, 家庭廃水由来の活性汚泥)

水中での安定性評価:

構造特性から加水分解はされないと考えられる。

水中における安定性に関する情報 (加水分解):

本品は未試験である。記述は、本品の構造に基づくものである。

総パラメーター

化学的酸素要求量 (COD): 1,520 mg/g

生物化学的酸素要求量 (BOD) 潜伏期間 5 日: 1,300 mg/g

生体蓄積性

生体蓄積性の可能性評価:

生物への著しい蓄積はないと考えられる。

生体蓄積性:

生体蓄積性はないと考えられる。

13. 廃棄上の注意

地方自治体の条例を遵守し、適切なごみ焼却施設で焼却すること。

[汚染された容器]:

汚染された包装から内容物を可能なかぎり取り除き、包装を完全に浄化した上でリサイクルに回すこと。

BASF 安全データシート
日付 / 改訂: 30. 09. 2025
製品: Luprosil®

バージョン: 21.0

(30041113/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 18.10.2025

14. 輸送上の注意

国際陸上輸送:

国連番号もしくはID番号: UN 3463
品名 (国連輸送名): プロピオン酸
国連分類 (輸送における危険有害性クラス): 8, 3
容器等級: II
環境有害性: 非該当

使用者への特別注意事項: 知見なし

海上輸送

IMDG
国連番号もしくはID番号: UN 3463
品名 (国連輸送名): プロピオン酸
国連分類 (輸送における危険有害性クラス): 8, 3
容器等級: II
環境有害性: 非該当
海洋汚染物質: 非該当
使用者への特別注意事項: EmS: F-E; S-C

Sea transport

IMDG
UN number or ID number: UN 3463
UN proper shipping name: PROPIONIC ACID
Transport hazard class(es): 8, 3
Packing group: II
Environmental hazards: no
Marine pollutant: NO
Special precautions for user: EmS: F-E; S-C

航空輸送

IATA/ICAO
国連番号もしくはID番号: UN 3463
品名 (国連輸送名): プロピオン酸
国連分類 (輸送における危険有害性クラス): 8, 3
容器等級: II
環境有害性: 環境に対する有害性の表示は必要ない
使用者への特別注意事項: 知見なし

Air transport

IATA/ICAO
UN number or ID number: UN 3463
UN proper shipping name: PROPIONIC ACID
Transport hazard class(es): 8, 3
Packing group: II
Environmental hazards: No Mark as dangerous for the environment is needed
Special precautions for user: None known

BASF 安全データシート
日付 / 改訂: 30. 09. 2025
製品: Luprosil®

バージョン: 21.0

(30041113/SDS_GEN_JP/JA)

印刷日: 18.10.2025

IMO機器によるバルクの海上輸送**Maritime transport in bulk according to IMO instruments**

該当法規: IBC-Code

Regulation: IBC-Code

品名: Propionic acid

Product name: Propionic acid

汚染の種類: Y

Pollution category: Y

船舶型: 3

Ship Type: 3

指針番号: 153

国内輸送規制はSDSの15章を参照のこと。

15. 適用法令

消防法: 第4類, 第2石油類, 水溶性

皮膚等障害化学物質等 (労働安全衛生規則第594条の2)

Japan Substances for PPE Requirement

11 2023

裾切り値: $\geq 1\%$

皮膚刺激性有害物質

SDS及びリスクアセスメント要件 (日本)

通知対象物

11 2023

裾切り値: $\geq 1\%$

1774

労働安全衛生法

表示対象物

11 2023

裾切り値: $\geq 1\%$

1774

皮膚等障害化学物質等 (労働安全衛生規則第594条の2)

プロピオン酸

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

Marine Pollution Prevention Law (JP)

係数: 1

Y 類物質

もし、有害液体物質が、タンク洗浄もしくはバラスト排出により海に排出されるなら、有害液体物質は、海洋資源や人健康に災害を及ぼしたり、動物や海のその他の合法的使用に害を及ぼすと見なされる。従って、海洋環境への排出の質と量の制限は正当なことである。

その他の規則

プロピオン酸

労働安全衛生法 危険物・引火性の物

プロピオン酸

船舶安全法 腐食性物質

プロピオン酸

海洋汚染防止法 有害液体物質(Y類物質)

16. その他の情報

【JIS Z 7252/7253 : 2019準拠】 本SDSに記載されていない必要項目は、情報がないことを示す。

本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。

左余白の縦線は前バージョンからの改訂部分を示す。

本安全データシートに含まれるデータは、当社の最新の知識及び経験に基づいて製品を安全性基準の観点からのみ説明するものであり、製品の特性（製品規格）を説明するものではありません。また、当該製品が特定の目的に適した性能・特性を有しているか否かを判断するためのものでもありません。本製品の使用者は自己の責任において製品に関わる特許等の所有権を尊重し現行の法律及び規則を遵守して下さい。